

- ・ とても必要な事業とは思えない。
- ・ アートマネージャーそのものの定義、役割の捉え方が抽象的。成果・効果も不明確。支えるというなら、その部分を明確にするべきで、そうでないなら無意味。
- ・ 応募が少ないというのは不要ということではないか。
- ・ 広がりが無い。
- ・ (財)静岡県舞台芸術センターにアートマネージャー育成の役割を持たせたらどうか？県がやる必要がないのではないかな？
- ・ アートマネージャー育成というより個別芸術団体の育成となっているので、本来そういう団体への支援としてアドバイザー的な役割でいいのではないかな？

<国・市町実施>

- ・ 文化活動を支える施策といいながら、分かりにくい支出になっている。
- ・ 文化芸術を広めたい人達(NPO)は各自で活動している。(自分達で広めている)
- ・ 県で支援する必要性が見えない。地域(市町)で行ってよいのでは。(そもそも県の支援を必要としているのか疑問)

<県実施(抜本見直し)>

- ・ 行政がアートマネージャーを養成するなどというのは行政のおごりではないか。既にアートマネージャーらしき役割を果たし、力も持っている人の中から、県として「アートマネージャー」に任命する方がより重要ではないだろうか。
- ・ 事業計画が十分練られていない。
- ・ 養成講座受講の条件として、自団体の活動以外の活動を要件としているのか(地域への貢献も要件になっているのか)活動の意義が認められ、やりっぱなし、出しっぱなし感がある。
- ・ 施策に対して効果があがっていない(希望する者が少ない)
- ・ 静岡県を文化面で誇れる県にしたいと思うが、アートマネージャー養成講座の内容に魅力を感じない。だから応募が少ないのでは？
- ・ 別の形で文化を支える県にしてほしい。いろいろな面で文化を地域に根ざした人から直接学ぶ機会がもてるようにした方がいい。
- ・ 事業仕分けに出すものではないと思える。もっと基本から考える必要もある。
- ・ これだけの人数で、県で行う必要があるのか？(もっとPR)
- ・ 事業目的の説明が明確でないのが不安に感じた。
- ・ 文化活動を支えるということが理解できない。
- ・ 文化活動の定義がはっきりしない。ましてや文化・芸術となると、非常に広がってしまい、生活全てが対象になってしまうのでは。(報告書、レポートを読んで何でもありなのだという印象)
- ・ アートマネージャーの役割(意味・存在意義)をもっと明確にしないと予算が無駄になる(名乗った者勝ちになってしまう)
- ・ 利益に結びつかない文化・芸術を県が支えようという視点は貴重だと思う。
- ・ そもそも「アートマネージメント力」は6回の研修で養えるものなのか、疑問。大学院等で学ぶべきものではないのか。むしろ、(県の)大学でそのような人を育てるような工夫をするべきでは。そして、県がそのことに力を入れるのであれば、奨学金を出すなどの形で長期に学ぶ学生を支援し、静岡県にその学びを返すような仕組みを作ったらどうか。

<県実施(一部見直し)>

- ・ 「文化支援活動レポート」第 3 号で紹介された団体の中に知人がいるが、その人はとても地道に一生懸命やっている。
- ・ アートマネージャーの必要数、達成年度も明確に設定して実行すべき。